

(様式 1)

「絆の作り手育成プログラム研究指定校」実績報告書（2年次）

1 学校名等

学 校 名	向日市立第5向陽小学校							校長名	野田 昌之	
所 在 地	〒617-0006 向日市上植野町五ノ坪1 電話 075-921-0001 FAX 075-921-0021									
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合 計	教職員数	
学 級 数	3	3	3	3	2	3	6	23	32	
児童生徒数	78	74	85	76	68	84	34	499		
連 携 先 (文化財所有者等)	向日市役所、向日市文化資料館、向日市文化財調査事務所、埋蔵文化財センター							※校長・教頭を含む		

2 研究校の概要

昨年度の実践をもとに、児童の学習に向かう姿勢に手応えを感じたことや教員の授業づくりを確立するために、児童の「自己有用感の高揚」を引き続き目指すこととした。また、本指定を受けて、授業構想では、郷土・人・ものとのつながりを大切にできる視点を取り入れることを全学年でも取り組むこととした。授業中の児童の実態を重視し、年間を通じて全学級で行う授業研究において、表情や座る姿勢、意見交換の様子を観察し、校内研究会で情報を共有し評価して指導に生かしている。特に、年々意欲的に授業に臨む児童や楽しく課題に向かってグループ活動をする児童が増加していると感じている。他方で数値目標として、学校評価アンケートから「わたしにはよいところがある」を肯定的に捉える児童の割合にも注視している。令和2年度から、肯定的な回答が増加している。

全教職員が、生活科及び総合的な学習の時間を核として、地域（文化財）を教材としたカリキュラムづくりをはじめ日々の授業、行事等にいたるまで郷土を知り、触れること、自己有用感の高揚を図ることを大切にしたい教育活動に取り組んでいる。特に6年生の学習は、本市の文化財を考えたときに歴史と深く関わるため、本指定の核となると考えている。そのため、6年生の学ぶ姿を、本校研究を通して実践して育みたい児童の姿として捉え、他学年の学習活動に系統性を持たせるカリキュラムをイメージしている。

3 主な研究活動

(1) 構想

- ・ 1年生から6年生まで、地域の学習として「向日市ふるさと学習」を生活科、総合的な学習の時間で進めている。特に6年生は、社会科の歴史と関連付けて、本指定を中心に位置付けた学習を行う。
- ・ 6年生の学習過程で大切にしたいこと
まなぶ・調べる・交わる→考える・まとめる・深める→伝える・やってみる
- ・ 6年生の学習目標（ゴール）
 - ①課題解決型の学習で提示された課題の解決策を思考することにとどまらず、考えた解決策を実行している。
 - ②実行できる解決策を考え、考えたことが形になることで、地域の役に立つということを実感できる。

(2) 計画と経過

<学校全体>

- ・「向日市ふるさと学習」に基づく、本校カリキュラムの改善を進められた。
 - ・生活科及び総合的な学習の時間の各学年の授業研究を全教職員が関わって行った。
- (6年生の年間指導計画)

「総合的な学習の時間」年間指導計画		第6学年 【テーマ】：「伝えよう！向日市の魅力」（70時間）													
学校目標	『生き生き はつらつ 命がかがやく学校』 【めざす児童像】 ○自ら学び、よく考える子 ○健康・安全に努め、体を鍛える子 ○他を思いやり、豊かな心をもつ子	単元目標	【学年目標 結びつき】 向日市の魅力を発信するための活動を通して、向日市の歴史、文化、伝統的なものよきよきに気付かせ、向日市が全国にPRできるものと考え、向日市長にプレゼンテーションを行うことで、地域との繋がりを深め自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとすることができる。												
総合目標	探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。 (1)地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよきよきに気付かせ、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。 (2)地域の人、もの、ことの中から問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調べて得た情報に基づいて考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。 (3)地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよきよきを生かしながら自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。														
月	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	単元の評価規準			
	フェーズ1「向日市の魅力について知ろう」(10h)				フェーズ2「向日市の魅力を発信する方法を考えよう」				フェーズ3「向日市の魅力を伝えよう」(25h)				知識及び技能	思考力判断力表現力等	主体的に取り組む態度
学習計画	<p>(おらいいい)</p> <p>向日市の魅力について調べ、課題を明らかにする。</p> <p>○向日市のことについて知る。知-① 思-① 学-⑤</p> <p>・児童一人ひとりが知っている、向日市（の魅力）について発表する</p> <p>・向日市の現状（良さ・課題など）を知る。</p> <p>・向日市が全国に向けてどんなPRをしているか知る。（ICTの活用）</p> <p>例：向日市のホームページ ・調べた情報が正しいものなのかを調べながら学習を進めるようにする。</p> <p>○向日市が全国に向けてPRできるものを調べると知る。知-②</p> <p>・向日市の歴史・文化・伝統的なものにはどのようなものがあるか調べる。</p> <p>○向日市の魅力を多くの人に知ってもらおうという課題を持つ。学-③</p> <p>・向日市の魅力に気付く。</p> <p>「向日市長の話」を受けて学習課題をさらに明確にする。</p> <p>●高校生との交流を行う。学-④</p> <p>・高校生との交流の時間を設定し、高校生と学習を共に深めるよきよきや学ぶ楽しさを調べる。</p>				<p>(おらいいい)</p> <p>課題解決に向け、知識を深め、よりよい表現方法について考える。</p> <p>○交流を通して、自身が知らなかったことに気付く。学-①</p> <p>・本学習のゴール（未来の姿）をイメージする。</p> <p>・自身の課題解決のためには、歴史的事実を知る必要があるという課題に気付く。</p> <p>○文化資料館の見学を行い、歴史的事実を知る。知-②</p> <p>・朝堂院・大極殿跡を見学する。</p> <p>・市の観光戦略を担当する方（広報課）に話を聞き、魅力だけでなく、困り感についても理解する。</p> <p>・向日市の歴史（文化）の中で、自身がどこに焦点を充てるのかを決め、課題設定を行う。</p> <p>・上記を踏まえグループに分かれて、今後の学習計画を立てる。</p> <p>○向日市の歴史遺産を見学し、向日市との比較資料とする。知-②</p> <p>・視点をはっきりとさせた上で見学を行う。</p> <p>・自身の現在持っている知識量を確認する。</p> <p>・観光客にインタビューを行う。</p> <p>○多くの人に魅力を知ってもらおうためのアイデアを模索する。思-③ 学-②</p> <p>・発表方法をどのようにするのかを考え、そのことをプレゼンテーションソフトにまとめる。</p> <p>●高校生のプレゼンを見せてもらい、自分たちの発表方法を修正する。思-④</p> <p>・プレゼンの方法に視点を置き、自身のプレゼンと比較しながら見るようにする。</p> <p>○向日市長（広報課）にアイデアの原案を発表する。思-⑤</p> <p>・改善点等足りないものを聞く。</p> <p>・最終発表を3学期に見てもらおうことを伝える。</p>				<p>(おらいいい)</p> <p>最終発表を行うことで向日市のよさを再確認し、自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとする態度を養う。また、次年度（後輩）に取組内容を発表し、活動を繋げる。</p> <p>○向日市をPRする準備をする。思-②</p> <p>・向日市長（広報課）、高校生のプレゼンを受けて、発表の準備を進める。</p> <p>・動画、ポスター、プレゼンテーションソフト等、児童一人ひとり（グループ）の発表方法に応じてPRする準備を進める。</p> <p>●準備したものを高校生に発表する。思-③</p> <p>・高校生についても発表と共に発表の仕方等についても高校生（大人）の視点でアドバイスを調べる。</p> <p>○高校からのアドバイスを各グループが考えている方法と共に改善点を交流し、再度準備を進める。思-④</p> <p>・高校生にお礼の手紙を書く。</p> <p>○向日市の公共施設（市役所、公民館、資料館等）に発表する。学-④</p> <p>・完成した（届けた）、PR方法に対する感想を調べる。</p> <p>○下学年（5年生）に活動内容を発表する。学-③</p> <p>・本活動内容で足りなかった点、達成できなかった点を活動内容の最後に付け加え発表する。</p> <p>・次年度、下学年（5年生）に目指すゴールを提示する。</p> <p>※このことについては次年度、下学年（5年生）が考えを伝えられるように含みを持たせる。</p>				①それぞれの「探究課題」について自分達の生活との関わりが分かる。	①地域の人々等の思いをふまえて課題を設定し、解決方法を手順を考え、見通しを持って追究している。	①課題意識をもって、自分なりの方法を工夫しながら探究活動に取り組んでいる。

<1年生、2年生>

- ・生活科を核として、学校の周りの自然や施設、人との関わりについて学習を進められた。
- ・主体的な学習、課題解決的な学習を視点とした授業研究が行えた。

<3年生、4年生>

- ・総合的な学習の時間で向日市について、暮らし（自然や公共施設、特徴的な施設）に関わったテーマをもとに児童の疑問をもとにした学習展開ができた。
- ・主体的な学習、課題解決的な学習を視点とした授業研究が行えた。

<5年生>

- ・総合的な学習の時間において、向日市の暮らしを豊かにする仕組みや福祉をテーマとして、児童の問いを中心とした学習展開ができた。
- ・主体的な学習、課題解決的な学習を視点とした授業研究が行えた。
- ・6年生の学習発表を見て、自分がどのようにどんな学習をするのか展望を持つことができた。

<6年生>

- ・文化財を生かして「向日市の魅力を伝えよう」をテーマに設定し、社会科の学習と並行して、向日市の歴史、地域に関わる歴史について知り、総合的な学習の時間において、さらに調べたことを見付けることができた。
- ・歴史や文化財の調査をもとに、向日市の魅力を理解した。魅力を知ったことで、その内容を人に知ってもらいたいと考え、魅力の発信をどのようにするのか具体的に考えることができた。
- ・向日市役所の関係課を巻き込みながら学習を進めることができた。
- ・課題解決に向けた提案をまとめ、発表会を開催することで、向日市長との対談や広報誌に学習内容が掲載されるなど児童の思いを各方面で発信することができた。
- ・魅力を発信するために一人一人が実践できる解決策と方法を実行することはできなかった。

4 今年度の研究の成果と検証

(1) 連携

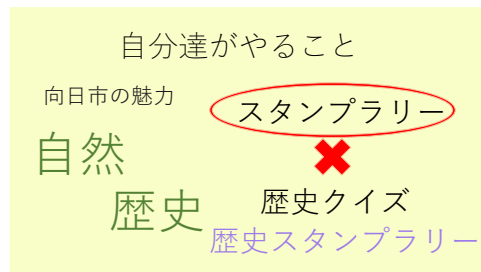
- ・文化財を教材として扱う上で、関連機関と連携し、もの、人との繋がりが強化できた。
(向日市資料館、向日市役所、上植野町公民館、上植野町農家組合)
- ・地域教材の掘り起こしを教職員の夏季研修で行い、地域の方々との繋がりができた。

(2) 6年生の考えた実践例

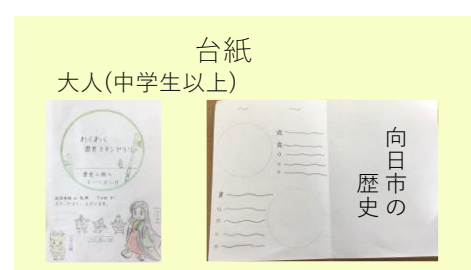
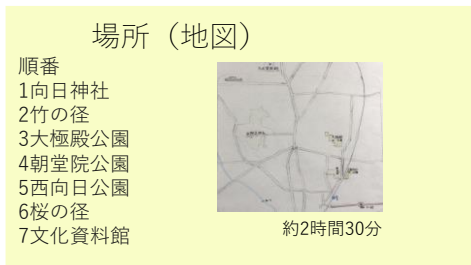
< 6年生が実際に作成した「向日市の魅力」を広めるための手立て >

- ・自分達（グループ）が考えた「向日市の魅力」
- ・向日市の文化財等を知ってもらいたい。
- ・知ってもらうための手立てとして「スタンプラリー」（歴史クイズ含む）の取組
- ・具体的な計画の企画
- ・学級や学年で伝えたい「向日市の魅力」と伝える方法を共有するための資料づくり
- ・グループ毎のプレゼンテーションで共有

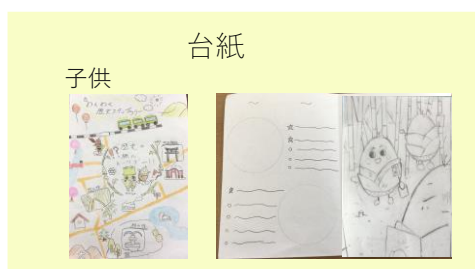
(プレゼンテーション資料)



向日市の魅力を伝えるために、地域で魅力のある場所をスタンプラリーで巡る企画を考えた。



向日市の魅力は、文化財を中心に選定した。

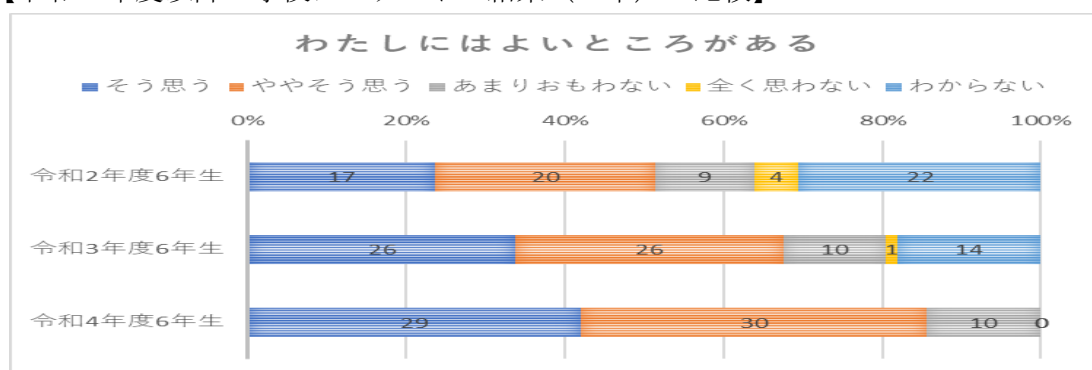


魅力を発見できる「スタンプラリー」とイベントとして楽しめる企画としてご当地の景品を渡すことを考えた。

(3) 検証の概要

学校評価に関わるアンケート調査（対象は、保護者、児童、教職員）の項目に「よいところがある」を設定しており、経年比較を行っている。

【令和2年度以降の学校アンケートの結果（6年）の比較】



- ・肯定的な回答が、令和2年度が約50%、令和3年度が約65%、令和4年度が約85%となり、自分の良いところを見つけたり、自覚したりしている児童の割合は増えている。
- ・「全く思わない」「わからない」と回答している児童が、年々減少し、今年度は、否定的な回答を選択した児童がいなかった。

これらのことから、自己有用感の高揚を目標にした本研究を含めた実践の方向性は効果があったと推測される。

(4) 6年児童の学習の振り返り

- ・歴史クイズを使った市内を巡るスタンプラリーを考えました。資料はタブレットを使って作成しました。授業の空き時間を利用して、疑問点を調べたり、グループで資料を共有できるアプリを使ったりして、グループで協力して気軽に学習に取り組めてよかったです。
- ・向日神社の魅力と課題について調べました。プレゼンテーション資料づくりでは、写真の配置などを考えるのが難しかったですが、グループで話し合いながら、見やすい資料になるように完成させることができました。他のグループの発表も見て、古い建物がとても多いことを再確認することができました。

(5) 所感

- ・各学年の研究授業での児童の様子から、意欲的に学習に向かう様子が随所に見られた。データからも、現在の取組が自己肯定感や自己有用感の高揚につながっているものと考えている。
- ・6年生児童の学習の振り返りからも、主体的に学習を進めている様子や自分だけでなく他者との繋がりも大切にしながら考えを深めていることが分かる。

5 今年度の課題

- ・6年生には当初「向日市の魅力は何か」を投げかけ、探究活動を進めたところ、歴史に関わることを挙げるが、その先に自分達が何をを目指したいのかが曖昧で方向性を見出せなかった。今回は、市長から町づくりについての思いや小学生の感性で市を盛り上げて欲しいとの願いを投げただけで、学習が進み出した。このような児童の探究心をゆさぶるきっかけがテーマ設定には欠かせず、指導者が苦慮する点と考えている。
- ・校区のフィールドワークだけでは、歴史を感じにくいいため、今後も文化資料館や市内の関連する文化財の見学、フィールドワークを積極的に実施していく必要がある。

6 事業終了後の研究構想

- ・6年生だけの取組とならないように、各学年の「総合的な学習の時間」のカリキュラム改訂のために、本校の6年間のテーマを明確にし、各学年の繋がりをもたせたい。
- ・児童が文化財及び地域のよさを実感するためにも、校区内や向日市の文化財に関わる方、地域の方との出会いや講話を意図して設定する。